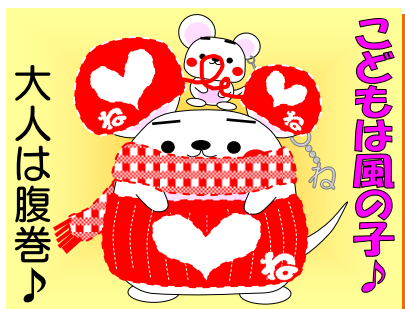




あおもりゆきだより 2009 第1号



2008年12月5日 青森地方気象台発行

【11月1日～11月30日までの経過】 ※観測値は次ページの図表資料をご参照ください。

【上旬】期間のはじめは高気圧に覆われましたが、2日から4日にかけて比較的短い周期で気圧の谷が通過したため天気はぐずつき、4日は一時的に冬型の気圧配置となったことにより雨やみぞれとなり雷を伴ったところもありました（気象台では4日に初雪を観測しました）。その後一旦天気は回復するも徐々に天気は下り坂となり、7日から8日にかけては低気圧からのびる寒冷前線が東北地方を通過した影響により、雨やみぞれが降り、雷を伴ったところもありました。

【中旬】期間の前半は高気圧に覆われた日が多く、概ね晴れましたが、期間の後半は前線の通過や冬型の気圧配置などにより天気が崩れる日が多くなりました。特に19日から20日にかけては上空5000メートル付近を氷点下40度の真冬並みの寒気が通過した影響により、広い範囲で雪となり、山沿いでは青森市酸ヶ湯で56センチの積雪を観測したほか、平地でも野辺地で36センチ、五所川原で35センチの積雪を観測するなど、多くのアメダス地点で10センチを超える積雪を観測しました。また、冬型の気圧配置が強まったことにより、吹雪となったところもありました。

【下旬】21日は上空に寒気を伴った低気圧が本県を通過し、広い範囲で雪や雨となりました。その後23日あたりまでは寒気の影響によりぐずついた天気となりました。期間の中頃は概ね曇りでしたが、29日から30日にかけては寒冷前線の通過により、雨や雪となりました。

【12月1日～12月5日までの経過】

期間のはじめは高気圧に覆われ晴れや曇りでしたが、2日夜から3日明け方にかけて寒冷前線が東北地方を通過し、雨となりました。前線通過後は高気圧が本県付近へと移動し、天気も次第に回復しました。5日昼前からは再び寒冷前線が接近、通過し雨となっています。

【トピック】

天気経過の項でふれたように、青森地方気象台では11月4日に今冬期間の初雪を観測しました。また、11月11日には初霜と初氷を観測しました。平年比及び昨年比は以下の通りです。

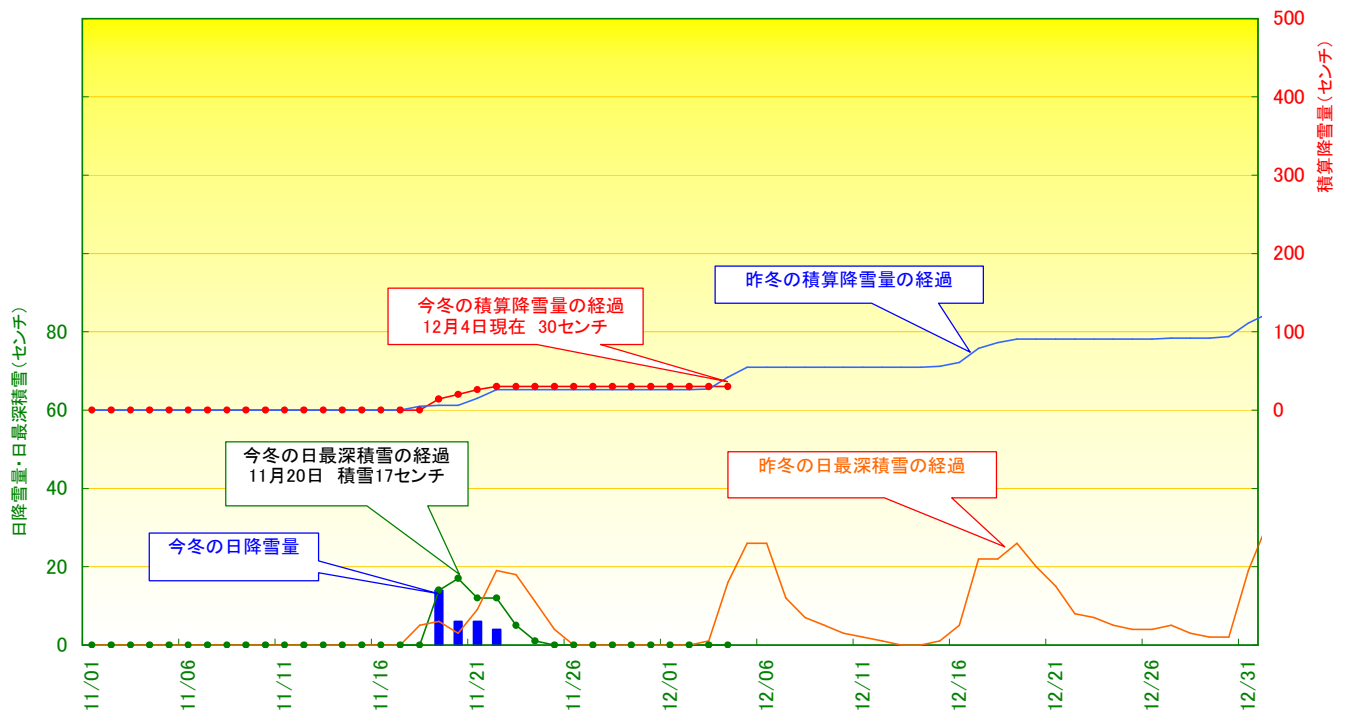
	今年	平年より	昨年より
初雪	11月 4日	3日早い（11月 7日）	11日早い（11月15日）
初霜	11月11日	19日遅い（10月23日）	—（※観測前に積雪状態となった）
初氷	11月11日	13日遅い（10月29日）	8日早い（11月19日）

【東北地方の今後1週間の見通し（12月5日11時発表）】 ※最新の予報をご利用下さい。

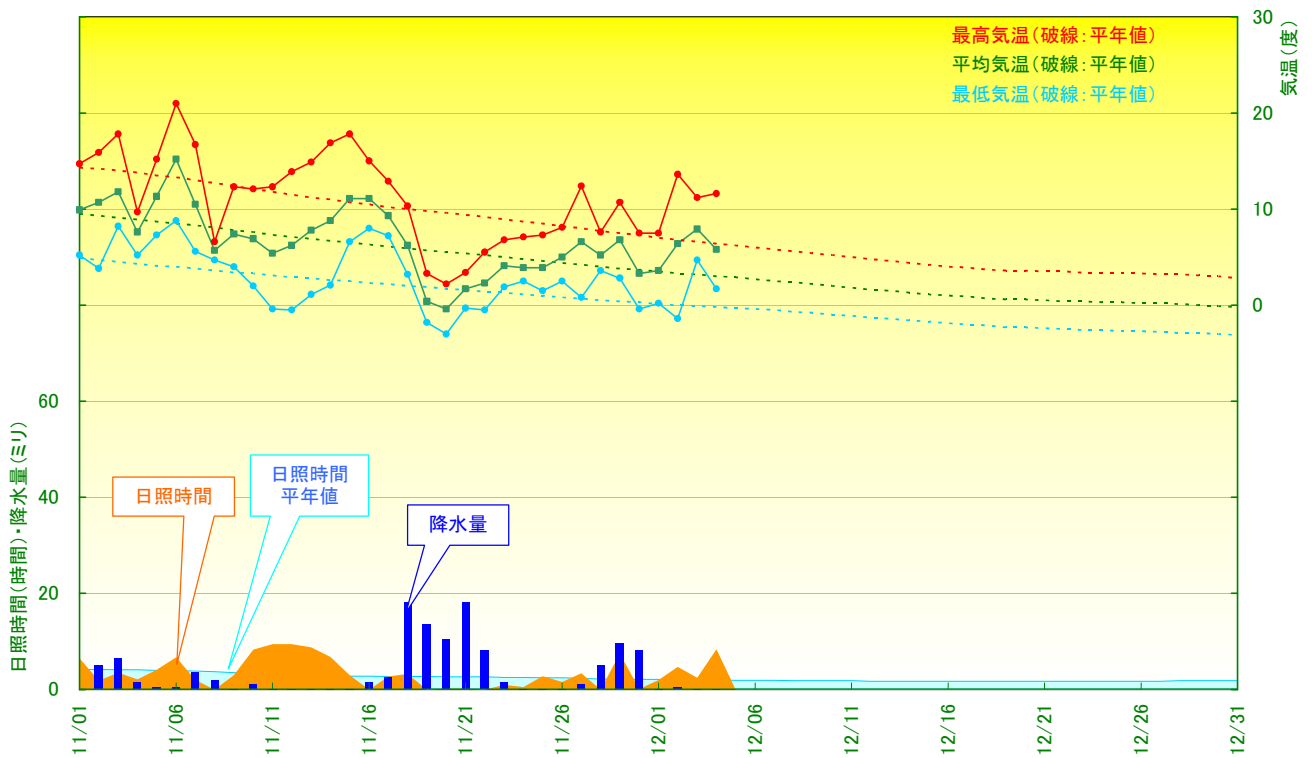
向こう一週間、日本海側は気圧の谷や寒気の影響により曇りや雨または雪の日が多いでしょう。太平洋側は期間のはじめと中頃は気圧の谷の影響で雨または雪の日がありますが、その他の日は概ね晴れる見込みです。

（この原稿の作成 技術課 木村）

【前月からの雪の経過図（青森）】2008 年



【前月からの気象の経過図（青森）】2008 年



県内気象官署の気候表（2008年 11月）

青森地方気象台

	気温			降水量			日照時間		
	平均 (℃)	平年差 (℃)	階級	合計 (mm)	平年比 (%)	階級	合計 (時間)	平年比 (%)	階級
上旬	9.7	+1.1	高い	20.5	49	少ない	38.0	92	平年並
中旬	6.6	+0.3	平年並	46.0	103	平年並	43.5	164	かなり多い
下旬	4.3	-0.2	平年並	51.0	113	平年並	17.0	72	少ない
月	6.9	+0.5	平年並	117.5	89	平年並	98.5	108	平年並

八戸特別地域気象観測所

	気温			降水量			日照時間		
	平均 (℃)	平年差 (℃)	階級	合計 (mm)	平年比 (%)	階級	合計 (時間)	平年比 (%)	階級
上旬	9.8	+1.1	高い	6.0	26	少ない	52.6	102	平年並
中旬	6.7	+0.2	平年並	17.5	83	平年並	55.5	127	多い
下旬	4.2	-0.5	平年並	46.5	277	かなり多い	33.6	81	少ない
月	6.9	+0.3	平年並	70.0	114	多い	141.7	104	平年並

深浦特別地域気象観測所

	気温			降水量			日照時間		
	平均 (℃)	平年差 (℃)	階級	合計 (mm)	平年比 (%)	階級	合計 (時間)	平年比 (%)	階級
上旬	10.4	+0.8	高い	21.5	49	少ない	24.2	70	少ない
中旬	7.5	+0.1	平年並	39.5	82	平年並	39.7	192	かなり多い
下旬	5.7	+0.2	平年並	48.5	88	平年並	16.3	92	平年並
月	7.8	+0.3	平年並	109.5	74	少ない	80.2	112	多い

むつ特別地域気象観測所

	気温			降水量			日照時間		
	平均 (℃)	平年差 (℃)	階級	合計 (mm)	平年比 (%)	階級	合計 (時間)	平年比 (%)	階級
上旬	9.4	+1.1	高い	39.0	107	平年並	31.7]	×	×
中旬	5.9	-0.2	平年並	39.0	94	平年並	32.5]	101	平年並
下旬	4.0	-0.4	平年並	36.5	98	平年並	31.1	109	平年並
月	6.4	+0.1	平年並	114.5	99	平年並	95.3	89	×

県内気象官署の雪の集計表（2008年11月）

	降雪の深さ月合計			月最深積雪		
	月合計 (cm)	平年比 (%)	階級	月最深積雪 (cm)	平年値 (cm)	階級
青森	29	73	平年並	17	18	平年並
八戸	18	225	多い	9	2	かなり多い
深浦	—	0	—	—	4	—
むつ	17	81	平年並	10	7	多い

★平年値は1971年～2000年の30年間の平均値

★階級は、平年値作成期間30年間の観測値のうち、上位1/3相当を「高い（多い）」、中位1/3相当を「平年並」、下位1/3相当を「低い（少ない）」と表現します。さらに、上位1/10相当と下位1/10相当は「かなり高い（多い）」、「かなり低い（少ない）」と表現します。

★日別値等、更に詳しいデータを必要とされる場合は、
気象庁・気象統計情報（<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>）をご覧ください。

★データに付加する記号の意味

値)：準正常値、統計値を求める対象となる資料の一部が欠けているが許容する資料数を満たす値。
値]：資料不足値、統計値を求める対象となる資料が許容をする資料数を満たさない値。資料不足値には、十分な信頼性はありません。

県内気象官署月統計値の極値・順位更新（2008年11月）

◎降雪の深さ月合計値（順位の更新はタイ記録も含んでいる。タイ記録は「＝」で表す。）

順位	地点	降雪の深さ月合計 cm	これまでの最大 cm	開始年
1	八戸	18＝	18(1985)	1953

★月間の気温、降水量、日照時間、降雪・積雪について、各気象官署毎の統計開始から3位以内を記録した場合に一覧表に掲載します。

冬によく使う用語

よく使われる用語

【寒候期】

寒候期とは季節の統計を行う期間として、**前年の秋頃から当年の春頃に至る期間をいい、特に断りがない限り10月～3月までとする**としています。

冬は年をまたぐ季節であるため「△△年寒候期」という場合、1月を含む方の年で表し、今冬は「2009年の寒候期」となります。

【冬】

「予報用語」では**12月～2月までの期間を「冬」と**しています。

【降雪量】

一定時間に新たに積もった雪の深さを「**降雪量（単位：センチメートル）**」といいます（降雪の深さともいう）。現在、气象台やアメダスでは、積雪を積雪深計によって毎時間自動観測しており、毎正時1時間前に観測された積雪の深さとの差を「降雪量」としています。

なお、气象台での降雪量の観測方法は、2005（平成17）年10月1日から雪板を用いた観測方法から変更になりました。



超音波式積雪計

【日降雪量】

一日24回毎正時（1時、2時・・・24時）に観測された降雪量を合計した値で「日降雪量」といいます（降雪の深さの日合計値ともいう）。

【積算降雪量】

「ゆきだより」で使う積算降雪量は、雪の降り始めからの降雪の深さを全て合計した値で記載しています。青森のひと冬の「降雪の深さの合計値」の平年値は774センチメートルです。

【根雪】

冬の期間中、積もった雪が、長期間消えずに残っている状態を「根雪」といいますが、気象庁の統計では「積雪の長期継続期間」または「長期積雪（略称）」と呼んでいます。統計方法も積雪の継続期間が30日以上にわたるときなど、求め方には条件があります。

【最深積雪】

ある期間内における毎正時の積雪の深さの中で、最も積雪が深かったときの値をいいます。日最深積雪は、一日24回毎正時（1時、2時…24時）に観測された積雪の中で最大を指します。ちなみに青森の平年値は114センチです。

【冬日】

1日の**最低気温が0度未満**（マイナス）となった日を冬日といい、青森の冬日の年間日数は平年値で111.7日です。

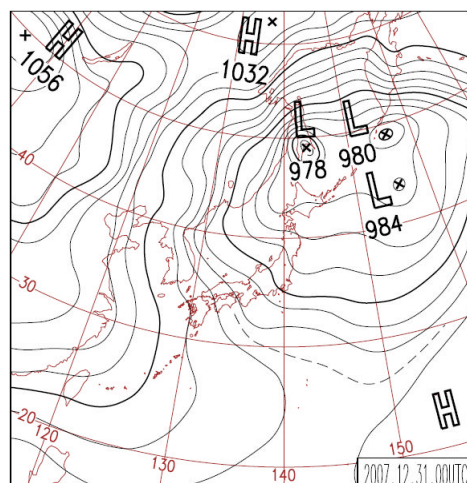
【真冬日】

1日の**最高気温が0度未満**（マイナス）になった日を真冬日といいます。日中まで気温がマイナスであっても、夜に0度またはプラスの気温となれば真冬日とはいきません。水道管の凍結が起こり始めるのは、一般に最低気温がマイナス4度からマイナス5度あたりからと言われますが、一度凍結し真冬日となれば自然に解けることは難しくなります。青森の真冬日の年間日数は平年値で22.9日です。

【西高東低の気圧配置・冬型の気圧配置】

日本付近から見て西に高気圧、東に低気圧という気圧配置（右図）を西高東低の気圧配置といいます。冬期に典型的に現れる気圧配置で「冬型の気圧配置」ともいいます。

天気図で描かれる等圧線（たてじま模様）の間隔が狭くなるほど「冬型の気圧配置が強まる」といい、日本海側を中心に強風、高い波、大雪などと荒れた天気となりやすくなります。



【南岸低気圧】

日本の南岸沿いを東から東北東に進む低気圧をいい、太平洋側の地方を中心に大雨や大雪、暴風をもたらすことが多い低気圧です。普段雪の少ない地方に湿った雪を降らせるため、雪による交通障害や着雪による送電線の切断、倒木などの被害が発生しやすい特徴があります。

（この原稿作成 技術課 石鳥技術専門官）

このほか天気予報等で用いる予報用語は、気象庁ホームページに掲載していますので参考にして下さい。

http://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/yougo_hp/mokuji.html

掲載したデータは速報値であり、品質管理によって後日修正される場合があります。



気象庁

国土交通省 気象庁 青森地方気象台
〒030-0966 青森市花園一丁目17番19号
電話 017-741-7411



国土交通省